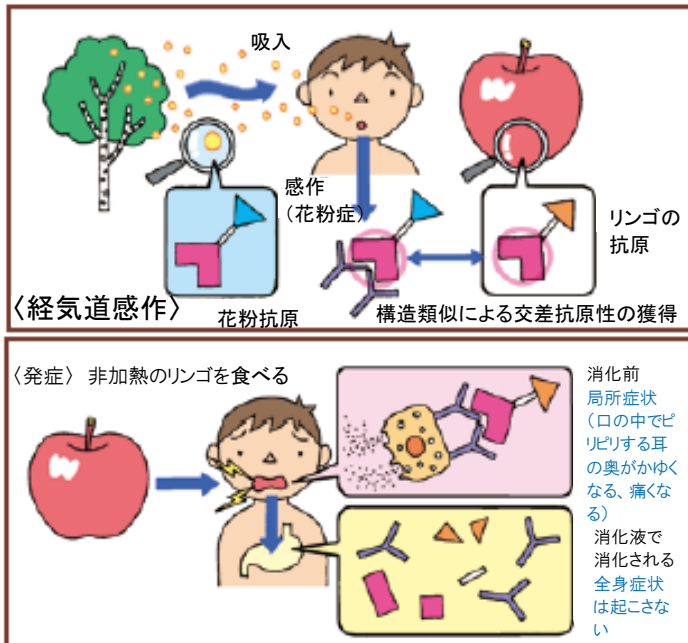


口腔アレルギー症候群(OAS)



〈経気道感作〉

花粉の一部のタンパク質(アレルゲン)が、ある種の果物や野菜の中のタンパク質と類似している場合があります。

花粉症のため花粉に含まれるタンパク質に対するIgE抗体を持つ人は、果物、野菜の中にある花粉アレルゲンと類似したタンパク質を新たなアレルゲンとして認識するようになります。

〈発症〉

その人にとって果物・野菜の新たなアレルゲンとなったタンパク質を含む食品を加熱せず生に近い状態で食べたときに、口の中でピリピリしたり、耳の奥のほうがかゆくなったり痛くなったりする、過敏症状が起るようになります。これが「口腔アレルギー症候群(OAS)」です。このアレルゲンは消化酵素に弱いため、胃で消化されてしまいます。

花粉との交差抗原性が報告されている果物・野菜などの組み合わせ

花粉		
カバノキ科	シラカバ、ハンノキ オオバヤシャブシ	バラ科(リンゴ、西洋ナシ、サクランボ、モモ、スモモ、アンズ、アーモンド)、セリ科(セロリ、ニンジン)、ナス科(ポテト)、マタタビ科(キウイ)、カバノキ科(ヘーゼルナッツ)、ウルシ科(マンゴー)、シシトウガラシ など
ヒノキ科	スギ	ナス科(トマト)
イネ科	ティモシーグラス ライグラス	ウリ科(メロン、スイカ)、ナス科(トマト、ポテト)、マタタビ科(キウイ)、ミカン科(オレンジ)、豆科(ピーナッツ) など
キク科	ヨモギ	セリ科(セロリ、ニンジン)、ウルシ科(マンゴー)、スパイス など
	ブタクサ	ウリ科(メロン、スイカ、カンタローブ、ズッキーニ、キュウリ)、パシヨウ科(バナナ) など
スズカケノキ科	プラタナス	カバノキ科(ヘーゼルナッツ)、バラ科(リンゴ)、レタス、トウモロコシ、豆科(ピーナッツ、ヒヨコ豆)

ひやりはっと② いつも食べていたものなのに...

食べて変だなと思ったら、それ以上食べないようにしましょう。

これまで普通に食べられていた新鮮な果物や野菜を食べると、口腔局所のアレルギーを生じることがあります。これは口腔アレルギー症候群(OAS)といい、加熱された加工品や市販のジュースでは症状は誘発されません。まれに一気に多量に食べると強い症状が誘発される場合があります。血液検査では診断が付きにくいので、新鮮な果物や野菜そのものを利用した皮膚試験によって診断が行われます。多くの場合、花粉症を合併しています。



普段から口にしていて食べ慣れた食物でもアレルギー症状が出ることがあります。気になる方は一度アレルギー検査をしておくといいいでしょう。

※独立行政法人 環境再生保全機構「よくわかる食物アレルギー対策ガイドブック2014」より抜粋